

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>玄関に法人理念を掲示している。また会議等を定期的に行い理念を通じて話し合い、共通理解を徹底にしている。</p>	<p>今後は地域住民の方にも伝達して行きたいと考えている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関に法人理念を掲示し、取り組み等は誰でも閲覧できるようにファイルに閉じて置いている。</p>	<p>地域の方にも今後はどのように伝えていくかが課題である。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>集合住宅の中にある施設なので、日常的に近隣の住民の方とは買い物や散歩等で気軽に会話等を行うことができる関係作りを築いている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>事業所として自治会に入り自治会役員も行っている。利用者は老人会に加入し地域住民とも交流を図っている。</p>	<p>今後も今まで以上に良い関係作りを行って行きたいと考えている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>今まで地域高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合いをするという事例はなかったが、いつでも話し合いに取り組める体制は整えている。</p>		<p>自治会役員等を通じて、今後は地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合う場を設け地域に発信していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価・外部評価を実施することで、施設全体の見直しや、介護にたいしての原点を見直すことが出来ている。改善課題があれば迅速に改善に向けて取り組む。</p>		<p>今後も改善課題があれば迅速な対応で改善に向けて取り組みたいと考えている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に2ヶ月に1回は運営推進会議を行い、意見等が出ればサービスの向上に活かしている。</p>		<p>今後も意見等が出ればサービスの向上に活かしたいと考えている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外にも行き来する機会を設けてはいない。南区GH会議にて市町村担当との情報交換の場を設ける事が出来ている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する制度については、法人全体の勉強会等を通じて職員等は理解し必要な人には活用できるように指導している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体の勉強会等を通じて介護現場では者虐待防止を徹底するように指導している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>説明後、家族にもう一度ゆっくりと読んで頂く時間を設け、十分に理解・納得してもらうようにしている。</p>	<p>今後も不明な点がないように、説明を行い納得できるサービス利用に繋がりたいと考えている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情については必ず管理者に報告し、管理者が対応するようにしている。</p>	<p>利用者が意見、不満、苦情をに外部者へ表せる機会を設けていないため、今後の課題である。年に1回の外部評価時の調査員の方々は、利用者に生活の様子、意見、不満、苦情等を聞いて頂いている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>1ヶ月～2ヶ月に一度は家族と連絡を定期的に取り、健康状態等を報告を行っている。また広報誌等も発信し施設内での生活の様子等を報告している。</p>	<p>今後も定期的な連絡調整を行きたいと考えている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見、不満、苦情については管理者に必ず報告し対応するようにしている。</p>	<p>家族等が意見、不満、苦情等があれば、管理者や職員や運営推進会議等で公表し、それらを運営に反映させて行きたいと考えている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月2回は必ず運営者との意見交換や提案等を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望があれば柔軟な対応ができるように調整が出来ている。また、施設行事や利用者の身体状況に応じて職員配置を考えている。</p>	<p>今後も柔軟な対応ができるように心がけたいと考えている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みのある管理者や職員による支援を受けられるように利用者に対して配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員がスキルアップのために毎月の法人の勉強会に参加している。また段階に応じて研修に行くように指示がでている。		今後も勉強会を通じて職員のスキルアップを行いサービスの向上に活かしたいと考えている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に一度、堺市南区内のGH同士の交流会を行い情報交換等を行っている。		今後も継続して情報交換会を行って行きたいと考えている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回は必ず運営者との個別面談を行いストレス軽減や業務についての提案や助言等をしている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自がスキルアップや向上心を持って働けるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接などを通じて本人から今現在困っていること、不安なこと、求めていること等を聴き、本人の把握に努めて信頼関係を築けように行っている。</p>	<p>本人の話を受容する心を忘れないように心がけている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接などを通じて家族が今現在困っていること、不安なこと、求めていること等を聴き、本人の把握に努めて信頼関係を築けようとしている。</p>	<p>家族の話を受容する心を忘れないように心がけている。面会時等に話す機会を設けている。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に、本人と家族がどのようなサービス望んでいるのか見極め対応し提案している。また他サービス利用も含めた対応も視野にいれている。</p>	<p>幅広いサービスを念頭にいれ相談時に対応している</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>新しい入居者の状態に応じて臨機応変に柔軟な対応をしている。</p>	<p>利用者が慣れるまでは家族にも協力してもらうことも視野に入れて説明している。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員はパーソン・センタード・ケアを念頭に入れ実行している。</p>	<p>今後もパーソン・センタード・ケアを行っていくように努めたいと考えている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年に1回の家族会や、時々本人宅に帰り家族が本人の状態を把握出来るように支援している。		今後も家族会等を通じて本人を支えて行きたいと考えている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年に1回の家族会や時々、本人宅に帰り家族と本人の良い関係が築いていけるように支援している。		定期的に行いたいと考えている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的な会話の中で馴染みの人や場所の話をする事により関係が途切れないようにしている。		また、馴染みの関係を途切れないように電話等を行う支援を行っている。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士、気の合う仲間作りを散歩等を通じて行っている。また、他のGHとの交流を定期的に行い仲間作りを広げるようにしている。		今後も気の合う仲間作りを行いたいと考える。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても継続して家族とは連絡を取っている。		今後も家族と連絡を取り合い幅広い相談窓口を築き上げたいと考える。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者1人ひとりの生活暦の把握を行い希望や意向を出来る限り尊重するように心がけている。また、家族からの助言や情報収集も大切にしている。</p>	<p>今後もパーソン・センタード・ケアを大切に取組んでいきたいと考えている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に家族からの生活歴の情報収集を必ず行なっている。また、以前利用していたサービス事業所等からも情報収集を行なうようにしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者の状態変化等については月1回の職員会議等で話し合い、職員全体で把握するようにしている。</p>	<p>今後は月2回程度の職員会議を開催したいと考えている。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>課題分析を行なう上で家族、本人から情報収集を行い介護計画を作成している。また、職員からのアイデアを大切にしている。</p>	<p>より一層パーソン・センタード・ケアを取り入れた介護計画を立てたいと考えている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な介護計画の見直しを行い家族に説明を行い同意を取っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録に本人の様子等を記入し介護計画時に見直し活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態や家族の希望等を把握し部屋や座席の位置を決めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	週2回はボランティアの協力体制を整え利用者を支援している。		今後は消防や警察との連携を取って行きたいと考えている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、法人を通じても他事業所との連絡体制を整えている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働している事例がない。		今後の課題である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず週1回は主治医の往診がある。家族の希望があれば往診時に同席も可能にしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医と日常的に綿密に情報交換を行なうようにしている。		今後も綿密に情報交換していきたいと考えている。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的に看護職と連携を図り、日々の利用者の様子等を提供している。また、医療面での知識等のアドバイス等を参考に利用者1人ひとりの支援に努めている。		今後も綿密に情報交換していきたいと考えている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時でも安心してもらえるように、時間があれば、他の利用者と職員等で病院にお見舞いに行くようにしている。		今後はできるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めたいと考えている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については家族・本人と話し合っていないが、法人として緊急時の対応及び重度化・看取りに関する指針を整備し家族・本人から同意を得ている。また重度化した場合については、法人と連携とっている。		日々の状態の変化などを家族に報告し家族と決めている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今まで終末期の利用者がいなかったため、今後の課題である。		今後の変化に備えて検討し準備を行ないたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が外泊する時には、家族に日々の様子を文章で伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者1人ひとりの尊厳を大切に声掛け等の指導をしている。また、記録等は施設より持ち出さないように指導している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望等を尊重し、日々充実した生活を過ごして頂くように支援している。		利用者中心で行なうように徹底している。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人ひとりの生活のペースを大切に、外出や買い物等の参加も本人の希望を尊重している。		今後も本人の希望を尊重して行きたいと考えている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴後のヘアスタイルの希望や衣服・衣類の選択を本人に決めてもらっている。また、月1位で美容院に行くようにしている。		外出時には化粧や身だしなみを整えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、利用者1人ひとりに夕食の献立を聞き、利用者と一緒に準備や片付けをしている。		今後も継続していきたいと考えている。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日替わりで買い物に参加して頂き自分が食べたいもの等を買って頂くように支援している。		買い物に行く楽しみ、食べる楽しみを提供している。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必ず毎日、排泄チェック表に排泄時にはチェックを入れ排泄パターンの把握に努めている。		なるべくオムツ類を使わないように援助している。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回は必ず入浴して頂くようにしているが、希望があれば毎日可能な体制を整えている。		利用者の状態にもよるが、浴槽に入り座れば介護スタッフは脱衣室で待機し見守るようにし、ゆっくりと入浴時間を楽しんでいただくように支援している。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者1人ひとりの話を聞き安心して眠れるように、足浴やホットミルク等を作り提供している。		何が不安になっているのかを常に考え問題解決に努めている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者1人ひとりの趣味や能力を活かした生活を考え支援している。		今まで行ってきた趣味等活かすようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時には財布を渡し、利用者自身で支払いを行なってもらっている。		今後もスーパー等の協力を仰ぎ続けていきたいと考えている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	基本的には毎日、散歩に出かけ気分転換を図っている。		散歩に行くと近所の住民の方と話す機会も増え交流が深まると考えている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別で出かける事もあるが、大体は施設全体で外出している。		今後はより一層個別の外出を企画していきたいと考えている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1～2ヶ月に1度は家族に電話等を行いやり取りができるように支援している。本人の希望があれば、その都度連絡できるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間も設定していないので、いつでも気軽に訪問できるようにしている。また、家族面会時はフロアで他の利用者や職員とも交流できる機会も作っている。		今後も継続していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束しないように徹底している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外部からの侵入者防止のため玄関には鍵をかけている。		大阪府からの危機管理体制について（通知）後から侵入者予防のため玄関の鍵を行っている。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して利用者の様子を把握するため、居室等を巡回し安全に配慮している。		今後も継続して行きたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じて対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内で事故防止委員会があり、未然に防げる事故等を徹底検証して施設でも活かすようにしている。		今後も継続して行きたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回法人の看護師から緊急対応時の研修を受けている。		今後は施設内でも緊急対応時の勉強会を行いたいと考えている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。災害時のマニュアルを各職員に配布し、施設では目の届く所に完備している。		今後も継続して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p> <p>リスク対応に関しては入居時に家族等との話し合いを行なっている。また、家族会や面会時等でも話し合いを行なっている。</p>		今後も継続して行きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>体調変化等は職員全員が把握し主治医・家族と連絡を常に取りよう心掛けている。</p>		今後も継続して行きたい。
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>管理者が薬の内容をまとめ、職員に伝達することを徹底している。</p>		今後も継続して行きたいと考えている。
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>便秘予防のため、食物繊維の多い食事を取ることや運動や腹部マッサージを行なうようにしている。</p>		今後も継続して行きたいと考えている。
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後、口腔ケアを徹底している。週に一度は歯科往診にて口腔管理を行っている。</p>		今後も継続して行きたいと考えている。
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>利用者1人ひとりの1日の食事量や水分量等を把握している。</p>		今後も継続して行きたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人全体で感染症マニュアルを作成し職員に徹底するように指導、実行している。外出後、手洗い・うがいを徹底している。		今後も継続して行きたいと考えている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	必ず食事準備前には調理道具の消毒等を徹底している。安全な食材を使うようにしている。		今後も継続して行きたいと考えている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設周囲には住民の方が作っている花壇や野菜畑があり生活感のあふれた雰囲気である。		今後も生活感があふれた雰囲気を作って行きたいと考えている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下等には利用者が作った展示物や行事等の写真を展示し居心地よく過ごせるような雰囲気作りを行なっている。		今後も継続して行きたいと考えている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	府営住宅のため居場所の工夫は困難であるが、お互いの居室で気の合った利用者同士、談話を楽しんでいる姿はよく見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	基本的に入居時に利用者が自宅で使用していた家 具等を持ち込んで頂くようにしている。		今後も継続して行きたいと考えている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	外気温と大きな差がないように温度調節を行なっ ている。また、利用者に応じて対応している。必 ず1日2回以上は換気を行っている。		今後も継続して行きたいと考えている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして安全 に生活できるように手すり等を設置している。		必要に応じて手すり等を増やし安全に過ごせるよ うに検討していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	わかる力を活かし、わからなくても構わない、利 用者全体から見れば極一部分に過ぎないと思う気 持ちは大切にしている。		利用者全体をみる大切さを今後も取組んで行き たいと考えている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	施設周囲には住民の方が作っている花壇や野菜畑 があり利用者は喜んで四季折々の花や野菜を観賞 している。また、バルコニーは入居者自身が毎日 洗濯をしたり、夏には流し素麺を楽しむ等活用し ている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で安らかさと穏やかさを感じつつ利用者主体で生活を営んでいただくために、スタッフはサポート役に徹するようにしている。又、利用者を援助する際